

## 「ヒトの生命の誕生」－理科としての取り組み－

筑波大学附属視覚特別支援学校 武井 洋子

[はじめに]

本校では理科の生物範囲で毎年、中2の3学期(場合によっては中3の3学期)に、植物や動物の生殖の延長として「ヒトの生命の誕生」を扱っている。昨年度、中学保健体育の担当者から「教科書に性感染症の内容が出てきて、いきなりという印象がある。生徒は理解できないのではないかな? 生徒はどこまで習っているのかな?」と訊かれ、私が担当している授業(ヒトの男女の体のつくり～子どもの誕生まで)を通して見学してもらった。また、たまたま同時期にジェンダーフリーの観点で盲学校での性教育を研究している大学院生の見学もあった。前任の青柳先生が始められて以来40年以上ずっと実施してきた「ヒトの生命の誕生」の理科としての授業を、他教科の担当者間での連携を視野に入れ、その概要をまとめてみたい。

[視覚に障害のある児童・生徒への指導]

現在の理科の教育課程では、小学5年で「ヒトの誕生」を学習することになっている。盲学校小学部の理科では、触る図や模型を用いて学習が進められるが、男女の違いや体に起こる現象の理解に重きが置かれているので、中学部ではそのしくみについて科学的に取り扱う必要がある。

視覚に障害のある児童・生徒の場合、偶発的に入ってくる視覚情報は皆無に等しく、性に関する情報がこれだけ氾濫している状況においても、視覚に障害のない同年齢の児童・生徒に比べれば、性に関する情報量は少ないといえる。児童・生徒の発達や理解の段階を踏まえて、学校の授業で意識的に取り扱わなければならない内容である。また、性に関する内容の学習は写真やビデオに頼りがちであるが、盲学校では模型を中心に、触る教材がないと進められない。教材の充実化を図るとともに、理科だけでなく他教科と協力し合って取り扱いたい。なぜならば、性に関する内容は、生に関する内容であり、自分の命も他人の命も大切に育てる人間を育てる指導にしていかなければならないからだ。単純にそのメカニズムを理解させるだけにならないように心がけたい。

[本校盲学校中・高等部での取り組み(概要)]

(1) 授業での生徒との約束事

授業の始まりに、以下の2点を毎回確認している。

- ① 人前では口に出して言わない。
- ② 他人の体で触って確かめない。

(2) 授業での模型の利用

\*女性の体

＊男性の体

＊胎児の成長の様子

＊その他、教職員の中に妊婦さんがいるときには、ご本人に了解を得て、理科の授業中、お腹に触らせてもらっている。

(3) 正しい理解をめざして

今年度の中1の生徒は、小学生のときに授業で習い、「卵と精子の受精」を知っていた。しかし、授業中のやりとりで感じたことだが、それは言葉として知っているだけで、本当に理解しているのかどうかは疑わしい。毎年行っているカイコの観察で、羽化したカイコガの交尾行動を観察したときに、生徒が「どこどこがつながったのか?」「なんのためにつながっているのか?」と質問してくる。計画的に段階的に生徒自身に疑問を持たせ、その疑問に応えるやり方は有効である。昨年とはまた、同じ学年でカイコガの交尾行動を観察したクラスと観察しないクラスができてしまった。この理科の授業のあと、保健体育でヒトが誕生するまでの内容を扱ったとき、その理解度が歴然と違っていたという。今後、さまざまな配慮が必要である。

[各教科の教科書にみられる または授業で扱う 主な内容 (教科別キーワード)]

	理科	保健体育	家庭科	社会科
中1	カイコガの交尾 (触って観察)	思春期の体の変化 受精・妊娠 性意識・性犯罪		
中2	卵生、胎生 有性生殖、無性生殖 オス、メス(男性、女性) 体内受精、体外受精 妊娠、生理 胎児の成長 出産			
中3		性感染症	保育	社会参加 平等
高	生命の連続性 生殖様式 性周期 ホルモン 動物の行動・脳の違い	思春期 性意識・性行動 妊娠・出産 家族計画 人工妊娠中絶	子どもの誕生 子どもの発育・発達 子どもの生活・保育	〃